

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.27 (1998.2.13号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1998.3.4. ; 8,[2]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

<震災支援>

“声を届けて”全国の皆さん、お手紙ありがとう

震災から3年が過ぎてなお、自力では仮設から抜け出せない人たち、その多くは身よりをなくし、すべてを失って病院通いを続ける高齢の方々です。だからこそ全国の孫のような子供たちからの便りを心待ちにしておられます。返事を出す余力のない方々も多くおられます。でも手紙が届くたび顔のしわを伸ばして喜ばれます。

この冬、文通をしていた何人かの子供たちが仮設を訪ねることができました。手紙から始まった支援の輪が広がっています。「高校生になってもずっと続けます！」仮設を訪ねた中学生が力強く語ってくれました。

大阪の松原第三中学、鶴橋小学校、真住中学、巽東小学校、如是（ニョゼ）中学、高鷲中学、アジアハウス学童保育所、石橋小学校、高知の土佐山田町・少年補導センター、香川の四国学院大学、京都の桃映中学、向島南小学校、聖母学院小学校、兵庫の長田小学校、百合学院小学校、志知小学校、愛媛の玉川中学、千葉の横戸小学校、茨城の九重小学校、宮城の福室小学校、東京の高山小学校、小平第十二小学校、幸小学校、今井小学校、静岡の東中学、そして紹介しきれない全国の皆さん、手紙やボランティアありがとうございました。震災を風化させず、生涯にわたって後遺症を負った方々を支えるためにも、引き続き手紙や応援をお願いします。

手紙から始めるボランティア、まず誰もがができることから始めて続けていけば、支えを必要とする多くの方がいやされていくと思います。

又、皆さんの手紙は一人一人に配るだけでなく、文通文集にして被災地の子供たちにも配ってもらって、被災した子供たちとお年寄りの方々とのコミュニケーションも図っていきたいと思っています。<鄭チョン>

大阪府私立学校同和教育研究会（第6部会）

～学校現場にボランティア部を～

1月23日（金）私学同研の1月例会で当協会にて代表の康秀峰による『未来に向かって』の講演が催されました。第6部会は大阪南部の18校の私立高等学校・中学校・小学校で結成されています。

講演内容は協会の過去・現在・未来の展望と幅広く多岐に渡って語られ、最後に篤い口調で、ボランティア部設立を強く要望し、好評裡に終了しました。

阪神・淡路大震災後ボランティアという言葉は認知され、関心は確かに高まっています。しかし大阪府下の若者のボランティア経験は、顕著に少なく全国平均の半分に停まっています。1月12日に「大阪ボランティア情報ネット

ワーク」が開設され、京都の44の大学・短大でつくる「京都・大学センター」も今春から学生が非営利組織で活動研修するインターンシップ制度をスタートし大学に於いても新たな教育システム創造に取り組む等、いろいろな試みがされています。

しかしながら義務教育・高等教育の時点でボランティアな精神を培い人間らしい情緒・感性・優しさに満ちあふれた豊かな心を養う基礎教育が必要です。子供たちが物とのつき合いに流れようとするなか、人と人とがつきあうボランティア活動を社会教育の新たな取り組みとして推進する制度を学校現場に導入して欲しいと思います。

2001年「国際ボランティア年」21世紀の明るい未来に向かって

(文責 山田裕子)

<追伸> ボランティア協会では、特に春休みに向けて学生ボランティアを募集しています。新学年、新進路で貴方を少し変えてみませんか？

街頭カンパボランティア募集

男女問わず待ってるよ

今、一緒に街頭カンパをしてくれるボランティアさんを探しています。僕は、昨年からコリアボランティア協会の人達と一緒に被災地の人達や、僕と同じ障害を持っている方達やお年寄りなど、困っている人達を助けるボランティアをしています。それと、「障害を持っていても何か1つぐらい人のために役に立つ事はないかと」考えてやり始めたのが街頭カンパです。

そんな事などで一緒に手伝ってくれる人待ってま〜す。いつも、電動車椅子に乗って駅などで頑張ってます。誰かお願いしま〜す。

車椅子に乗ってる コリアボランティア協会 街頭カンパ責任者 木野内孝史

(c)1998コリアボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)